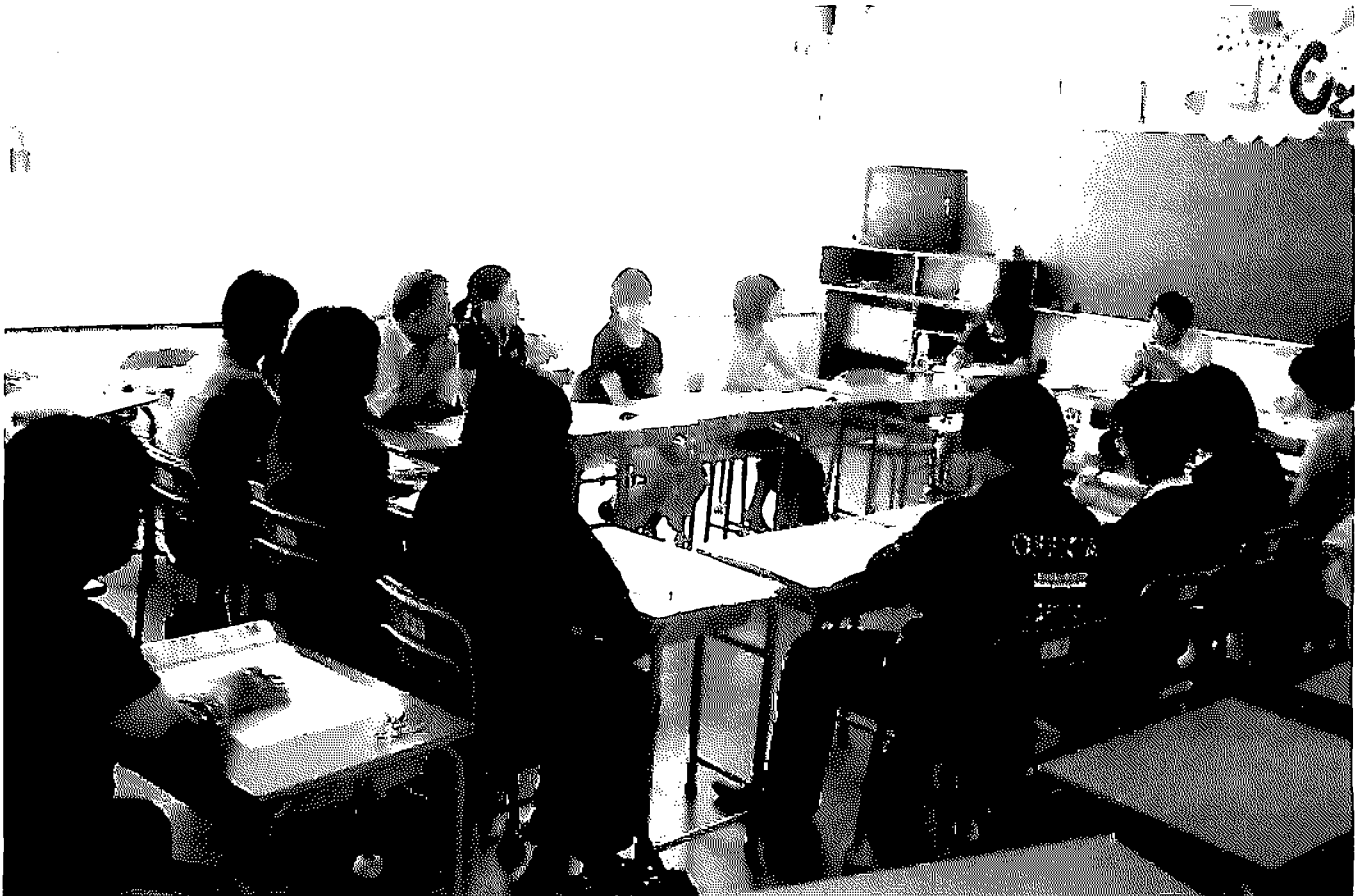


つながりあうことうら

第6号 2007.11.30 発行：琴浦町同和教育推進協議会



(差別をなくする町民集会分散会の一場面)

第3回琴浦町
差別をなくする町民集会 (2・3面)

同和教育部落懇談会 (4・5面)

2007年度琴浦町
同和教育推進協議会総会 (6面)



(差別をなくする町民集会講演会の一場面)

第3回琴浦町差別をなくする町民集会

テーマ「町民一人ひとりがつながりあう人権尊重のまちづくりに向けて

～同和教育を通して、何を学び、どうまちづくりに活かすのか～

二〇〇七年八月二十五日、赤碓中学校において、差別をなくする町民集会を開催しました。

町民集会は、自らが実感している同和教育のすばらしさを語り合い、その成果を再確認するとともに、自分自身の意識や行動を振り返り、これからの自分の生き方を考えることをねらいとして開催しました。

全体会では、徳島県北島中学校教諭の森口健司さんからご講演をいただきました。

その後、十二の分散会に分かれ、多くの方が熱心に語り合いました。

講演会

キラキラと輝いて生きるために

～「ひとごと」から「わがごと」へをキーワードとして～

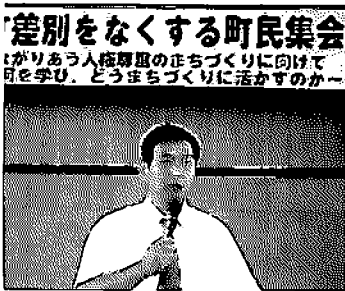
森口健司さん (徳島県北島中学校教諭)

「ひとごと」から「わがごと」へ」とサブテーマを書いてあるが、人権を本気で学び合うということ、自分の問題として考えていくというこ

会うこと(が大切である)。

なかなか「わがごと」にならない。これは同和問題もそうです。被差別部落の人との交流がなかったら、つながりがなかったら、学びがなかったら、人間は無関心になり、「ひとごと」としての発言を繰り返すようになる。

人と出会う、人とつながる、そんな中でしか確かなものにはなっていない。この営みが「ひと



ごと」になったときに、世界は切ない状況になる。生き方として、自分自身の思いをいきいきと語り合える地域の関係を私は創っていききたいと思う。

私の隣の奥さんは関東の出身で、同和問題があることすら知らなかった。知らないということ、学びがないということ。そのことがきちんと認識されていないということ、は、本当に怖いことです。

人権が豊かに学び合える、そのことをきちっと語り合える関係ということ、そういう取り組みが町の中にあるということ、は、すごいことだと思ふ。

一生懸命自分を伝えていくことによって、そこに集まった人がその思いを伝えてくれる。そのやり取りの中で人間というのは変わっていく。必死に語る言葉を聴いたら、自分のことを言わなければおれないようになる。必死に返すようになる。



返した仲間にもまた返すようになる。学習者が学習者を変えていく、その学びの中で、この時間が宝物になるということを実感する。

一人ひとりの本気の言葉に出会ったら、魂が揺さぶられていく。その言葉が一人ひとりを変える。自分なんです。自分を磨くことなんです。

すぐ他人の悪口を言ったり、すぐごまかす。そういう世界に暮らす生き方もあるだろう。でも、自らを問い返しなから、今の私でいいんだろうか。職場の人間関係、親子の関係、地域の関係。私に何ができるんだろうかと問う。

周りの人たちにも、「ひとごと」でしか言えん現実がある。でも、あきらめず思いを聴きながら、そこから生まれる思いを伝え合う中で、世界が広がっていくと思う。

私は、同和教育は絶対に魂を揺さぶっていける

分散会

分散会テーマ

全ての町民が参加する 同和教育部落懇談会を願って

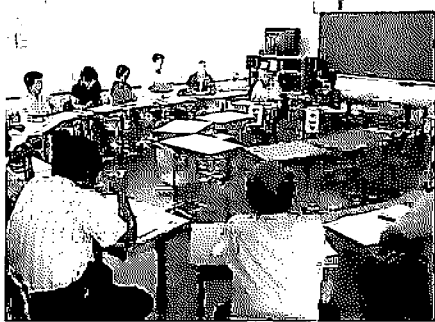
参加者を増やすために

◎職場の人の声かけで参加した。そういう後押し。ちよつとした声かけで参加できた。声をかけあうなど地道な活動が必要ではないか。

◎声をかけても「毎回出席しても同じことだけ」という意見がある。

◎懇談会に参加するたびに、いろいろなことに気づかされる。

◎ひとごとを考えている人が多いのではないか。



◎部落問題は、被差別部落の問題ではない、皆の問題である、このことを認識してほしい。

学んだこと、

自分が変わったこと

◎以前は、差別はいけな、差別をなくす、それはつらい立場の友だちを助ける、人のためという考えだったが、自分のために学ぶ必要があるという考えに変わった。

◎懇談会等に出て、話するのは苦手だが、苦手なりに少しずつ話せるようになってきた。少しずつ自分が変わってきている。

◎①話を聴ける②嘘をつかない、人の悪口を言わない③今自分ができる事を一生懸命する。このことができれば、つながりあって、相手を思い合っ

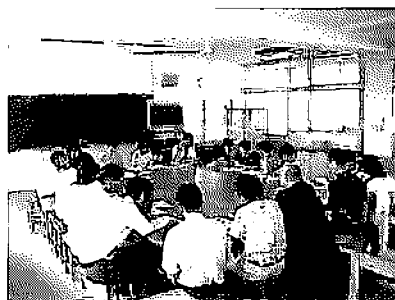
地域が変わってきたこと

◎懇談会に出る時に、母から「話したらいけない」と言われた。「男性ばかりで女性は発言したらいけない」と言ったのだろう。だんだん女性が出席するようになり、最後まで話

が聴いてもらえるようになった。自分の思っていることは話さないと相手に通じない。

◎いろいろな困っていることを言えるような雰囲気になってきた。

◎「こうしてほしい」「認めてほしい」と発言すると地域が変わっていく。



今年度懇談会に向けて

◎懇談会を部落の大切な会と位置づけ、年中行事(例えば部落の総事のように)になっているか、活動としての位置づけを考

◎懇談会にずっと出席している参加者から「ああ、

よかったなあ」ということがひとつもない」と言われ、がっかりした。

◎久しぶりによそから帰ってきたというおばあさんが「なんていいところ

帰ってきたのさ。嬉し」と発言された。

◎「同和教育の会合はすばらしい。出ないと損をする」と実感できる会合をめざすべき。

◎懇談会では、さまざま意見が出ています。意見には、前述のように「懇談会に出ても良いことがひとつもない」という意見もあります。しかし、自分や地域が変わってきたことを実感している人たちも多くなります。

「生まれて良かった」「一人ひとりが大切にされる」そんな部落を、琴浦町を、築いていくために、懇談会を部落の大切な会と位置づけ、みんなが参加し、自らの思いを語り合いましょう。

2006年度 同和教育部落懇談会

教材について

昨年度の教材は、被差別部落を避けるという意識と、部落問題を自らの課題として捉えることを主題に作成しました。

被差別部落を避ける意識が日常生活のどの場面で表れてくるのか、自らの課題とはどういうことなのかを朗読劇にして、各部落で演じてもらいました。

その後、なぜ避ける意識が身についているのか。避けるという意識や行為が、何の根拠もなく、いかに不合理であるか等について語り合いました。そして、差別解消に向けて、一人一人が何を考え、どのように行動していくのかを語り合いました。

昨年度の懇談会では、被差別部落を避けるという意識と、部落問題を自らの課題として捉えることを主題に作成しました。

に出会ったときに伝えることが大事だと思うし、指摘し合える関係が大事。

◆ この劇を読んで、自分も差別をしているかもしれないと思う。新聞の折込で中古住宅の広告があった。安いけど被差別部落だから売れんのだなあと思った。自分も差別していると思った。

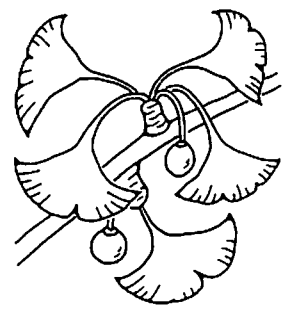
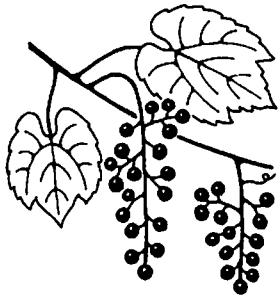
◆ 自分は中学三年からしか同和教育を受けていない。教育を受けていない親がどうやって教えられるのか。

◆ 自分のために差別をなくすと考えたことはなかった。人のためにというふうに思っていた。

◆ 親にも学習する機会はある。会社やPTA、各種講演会など。子どもに差別の成り立ちは教えられなくても、子どもと一緒に学んでいくことができる。

◆ みんなが同じように行動してしまうと差別はなくならない。その場で正していけるような行動力が大切だと思う。

◆ 社会意識を変えることが大事。今日ここに来ている人が来ていない人



◆ 時期的に遅い。もつと早くしてほしい。インパクトがないと駄目。被差別部落の人たちと交流会がしたい。腹を割って話ができると思う。交流会を強く要望する。

◆ 第一回の懇談会から考えると、前向きに会が進むことがすごい進歩だ。

◆ 部落差別について語ることをタブー視しないで、どんどん思ったことを語れるようになればなくなっていくのでは。

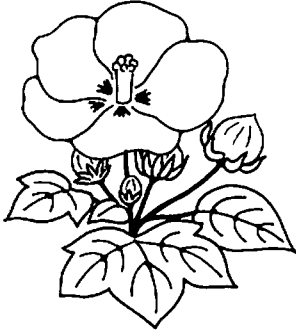
◆ 今年の話の内容は同和教育が大変進んできたと感じた。一昔前は絶対にこのような話は出なかつただろう。

◆ これは言っただけじゃないとか気を使うことがあったが、今では本音で語り合うような懇談会になってきた。これも成果だと思えるから、あんまり急いで結果や成果を求めようとせず、じっくりやっていきたいと思う。

◆ 会を重ねるにつれ、人の話を聴いたりしているうちに自分自身の考え方も変わってきた。会に出ることに意味があると思う。

◆ 年一回の懇談会ではあるが、部落の中でも差

◆ 保育園、小学校と子どもと共に学習し育ってきたと思う。以前は何も考えていないこともあった。考え方、心の部分と



いった所が変わってきた
 と思う。家族の中でも、
 子どもから指摘されたり、
 姑にも言えたり、話し合
 えるようになってきた。

◇ 同和教育を学ぶにつ
 れ、自分がどんなに愛さ
 れているかということに
 気づいた。親以外の家族
 にも、近所の人にも、学
 校の先生にも大事にされ
 ている。同和教育があれ
 ばこそ気づけたこと。大
 事にされた分、他の人も
 大事にしようと思う。

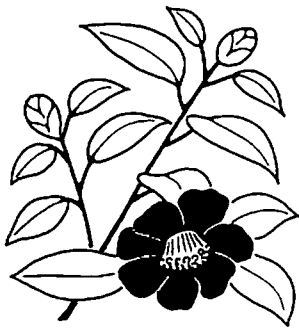
◇ 部落問題を勉強して
 きて、障がいのある人
 を見る目が少しは変わっ
 てきた。自分自身差別しな
 いようにしているし、知
 らず知らずのうちに人を



見下すことのないよう意
 識していきたい。勉強会
 にも参加して意識改革し
 ていきたい。

◇ 学習の場で自分の考
 えを直そうと思うが、日
 が経つと薄れていく。そ
 して、また学習会に出て
 思い出しの繰り返し。健
 康診断といっしょで自分
 を定期的に見直すことが
 大事ということにも気づ
 くことができた。

◇ 周りの人からどう思
 われるのか、常に周りの
 人目を気にしていたが、
 本会に出席するようにな
 って意識が少しずつだ



が変わり始めた気がする。
 やはり同和教育の場を絶
 やしてはいけないと思う。

◇ 自分の子どもの結婚
 について考えるとき、被
 差別部落出身という理由
 だけで反対しない自信は
 あるが、正直、親戚がど
 う思うかが心配。

◇ 昔の話ではなく、今
 も同じように差別は続け
 ていると思う。結婚は、
 どこの人間ではなく、本
 人の人間性を見てほしい
 と思う。反対していた者
 も、話し合っていて、
 人柄を見てもらって納得
 する。本人だけを見てほ
 しいと思う。

**昨年度懇談会での
 話し合いの内容について**

懇談会では、自分自身
 の差別性に気づき、部落
 問題を自らの課題として
 考えられる人が増えてき
 ています。

しかし、誰かのための
 学びだけに留まっている
 人がいる現状もあります。

また、「なかなか今すぐ
 には、差別はなくならな
 いと思う。」「自分には偏
 見はない」「同和教育II部
 落問題という感が強く、
 集まりが悪いのでは。人
 権教育として内容もそう
 した方が、集まりが良く
 なるのではないか。」とい
 うような意見も出ていま
 す。

同和教育の営みは、わ
 たしたちの尊厳を再認識
 するとともに、一人ひと
 りのより深いつながりを
 築いてきました。部落問
 題を中心課題とし、さま
 ざまな人権課題を解決し、
 一人ひとりを大切にしま
 い、認め合える社会をめ

ざしてきました。

差別を許さず、なくし
 ていくためには、一人ひ
 とりが、自分自身の意識、
 行動を振り返り、自分が
 どう生きていくのかを考
 え、自分を変えていくこ
 とが必要です。同和教育
 は自らの生き方を問うこ
 とです。

懇談会では、「みんな
 変わってきたことを共有
 したい。世の中が変わっ
 たことを後世に残したい。
 良くなってきた実感がみ
 んなに広がるような取り
 組みができないものかと
 思う。」という意見があ
 りました。

同和教育を通して、自
 分や地域が変わってきた
 ことを実感する人が増え
 てきています。これから
 も懇談会でみんなが語り
 合い、部落差別をはじめ
 あらゆる差別を許さない
 生き方を明確にしていく
 とともに、差別をなくし
 ていく営みを広げていき
 ましょう。

琴浦町同和教育推進協議会総会

二〇〇七年七月一〇日、まなびタウンとうはくにおいて、「琴浦町同和教育推進協議会」の二〇〇七年度総会を開催しました。

二〇〇七年度総会では、昨年度事業報告・決算、今年度事業計画・予算などの承認、新役員を選出を行いました。また、基本方針も承認され、町民一人ひとりがつながりあう人権尊重のまちづくりをめざし、これからもあらゆる分野で、今以上に、同和教育の推進に努めていくことを確認しました。

本紙では、総会で決定した基本方針、役員体制を紹介いたします。

基本方針

二一世紀は人権の世紀と言われています。町民一人ひとりがつながりあう人権尊重のまちづくりのために、同和教育の一層の推進が必要であります。

同和教育の営みは、わたしたちの尊厳を再認識するとともに、一人ひとりのより深いつながりを築いてきました。そして、差別の現実から深く学ぶことをとおして、自己と社会をしっかりと見つめてまいりました。それは、差別を許してきた社会のあり方を問い直し、社会を構成するわたしたち一人ひとりの生き方を問い直す営みにほかなりませんでした。

まさに、誰もが心の安らぎを覚えながら幸せに生きられる社会と豊かな人間関係をめざしてきたのが、誇りうる同和教育の歴史でもありました。

しかしながら、現実には「寝た子を起こすな」という傍観的な意識が存在するなど、これまで同和教育の果たしてきた役割や意義が、町民一人ひとりに十分に浸透できていない状況が見受けられるのも否めない事実であります。

したがって、琴浦町内に組織されているさまざまな団体や学校、企業、行政などが、一丸となっ

て、相互に「連帯と交流」を図りながら、同和教育のより一層の推進に努めなければなりません。

琴浦町に暮らす全ての人が、日々の生活をとおり、同和教育と主体的に関り、より豊かな

ながりとぬくもりを育んでいく営みを支援していくとともに、部落差別をはじめあらゆる差別の完全解決に向けた研究・推進に努めてまいります。

琴浦町同和教育推進協議会役員 (2007 ~ 2008年度)

役職名	氏名	所 属 等
会 長	山 下 一 郎	琴浦町副町長
副 会 長	森 静 春	部落解放同盟琴浦町協議会議長
	足 立 慎 夫	成美地区公民館長
	榎 田 郁 子	女性団体連絡協議会会長
監 事	谷 田 巖	浦安地区区長会長
	酒 本 幸 栄	浦安地区同和教育推進研究協議会会長
事務局 長	永 田 武	琴浦町教育委員会教育長
学校幼保部 会 長	難 波 孝 幸	古布庄小学校長
	佐 伯 陽 子	以西小学校長
行政部 会 長	松 本 千 美 栄	浦安保育園長
	松 岡 義 雄	総務課長
企業部 会 長	山 根 礼 子	農業委員会事務局長
	川 上 祐 一	商工会会長
社会教育 部 会 長	伊 藤 正	労務改善協議会会長
	竹 中 明 廣	下郷地区同和教育推進研究協議会会長
企 画 委 員 長	倉 長 正 徳	安田地区公民館長
	澤 田 豊 秋	人権・同和教育課長
広 報 委 員 長	岡 本 敏 明	教育総務課指導主事